



茨城県石岡市とのつながり

文京区と茨城県石岡市の所縁は、現在の石岡市にあたる常陸国新治郡府中の藩主、松平播磨守の上屋敷があったことにはじまります。文京区の桜の名所である播磨坂の名前は、この屋敷に由来しています。平成8年に「災害時における相互応援に関する協定」を締結し、近年では協定の垣根を越えて、防災、教育、スポーツ、観光など多彩な交流を行っています。

令和8年に記念の年を迎える
主なゆかりの文化人

跡見花隠—— 画家・教育者[1840-1926] 没後100年
井上哲次郎—— 哲学者[1856-1944] 生誕170年
宇野千代—— 小説家・随筆家[1897-1996] 没後 30年
織田一磨—— 版画家[1882-1956] 没後 70年
葛原しげる—— 音楽家[1886-1961] 生誕140年
坂口安吾—— 作家[1906-1955] 生誕120年
島木赤彦—— 歌人[1876-1926] 生誕150年

没後100年
相馬黒光—— 実業家、随筆家[1876-1955] 生誕150年
高島華宵—— 画家[1888-1966] 没後 60年
高村光太郎—— 彫刻家・詩人[1883-1956] 没後 70年
高村智恵子—— 画家、紙絵作家[1886-1938] 生誕140年
武田泰淳—— 小説家[1912-1976] 没後 50年
谷崎潤一郎—— 小説家[1886-1965] 生誕140年
近松秋江—— 小説家・評論家[1876-1944] 生誕150年
夏目漱石—— 小説家[1867-1916] 没後110年
萩原朔太郎—— 詩人[1886-1942] 生誕140年
樋口一葉—— 小説家[1872-1896] 没後130年
星新一—— 小説家[1926-1997] 生誕100年
村川堅固—— 歴史学者[1875-1946] 没後 80年
森志げ—— 小説家[1880-1936] 没後 90年

さまざまな分野の文化人が足跡を残した地・文京。ゆかりの文化人を顕彰し、

今年度は、「災害時における相互応援に関する協定」30周年(石岡市)にあたるため、石岡市及び文京区ゆかりの文化人である正岡子規を顕彰します。また、盛岡市と文京区ゆかりの文化人である宮沢賢治(生誕130年)、生誕140年を迎える石川啄木及び平塚らいてうを顕彰します。



正岡子規



宮沢賢治



石川啄木



平塚らいてう

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

申込方法等詳細は、区報・ホームページ等でお知らせします。

●文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

朗読コンテスト観覧者募集(主催:文京区 主管:跡見学園女子大学)

課題作:伊藤左千夫、江戸川乱歩、谷崎潤一郎、夏目漱石、宮沢賢治

日時:11月1日(日)13時~16時

会場:跡見学園女子大学 Blossum Hall(東京都文京区大塚1-5-2)

申込期間:10月1日(木)~31日(土) 定員:200人(申込順)

問合せ 跡見学園女子大学文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
[E-mail] roudoku@atomi.ac.jp



▲申込はこちら

区制80周年記念 特別展「江戸の御家人 幕府を支えたサムライたち」

江戸幕府に仕えた御家人の家と仕事に関する資料を紹介します。

会期:11月7日(土)~12月20日(日)

会場:文京ふるさと歴史館
(地下1階特別展示室・視聴覚室)

入館料:100円

休館日:月曜(祝日の場合は翌日)
※中学生以下・65歳以上・友の会会員、
身体障害者手帳等提示の方と介護者
1人は入館料無料



「殿居義 後編」天保10年

特別展記念講演会「幕臣における与力・同心について」

日時:11月15日(日)14時~16時

講師:滝口正哉氏(徳川林政史研究所特任研究員)

会場:男女平等センター(東京都文京区本郷4-8-3)

申込期間:10月1日(木)~25日(日) 定員:100人予定(抽選)

問合せ 文京ふるさと歴史館 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221
開館時間:10時~17時



▲詳細はこちら

※上記事業のほかに、文化人顕彰に関連した史跡めぐり・歴史講演会を実施予定

●元町小学校歴史展示室

旧元町小学校跡に建てられた複合施設・元町ウェルネスパーク内にある展示室は、関東大震災を機に移転・建設した当時の教室を復元しています。小学校の解体時に収集した建築部材の一部や模型を展示するとともに、アーカイブとして校舎各部の解説や建築部材、旧校歴室に残る卒業証書・卒業生の紹介等を収めています。なお、著名な卒業生には高村象平氏(経済学者・慶應義塾大学塾長)や平出修氏(弁護士・文人)の長男・末氏(最高裁検事・翻訳家)、矢崎節夫氏(童謡詩人)がいます。

問合せ 東京都文京区本郷1-1-19 元町ウェルネスパーク東館3階
TEL 03-5654-5715(代表)
開室時間:9時~17時
休室日:年末年始及びその他施設検点日
入場:無料



▲歴史展示室HP

●文京区アカデミー推進課文化事業係

文京区企画展「大石隆子 回顧展(仮)」

戦後書壇を代表する女流書家であった、大石隆子氏の書道作品を展示します。

日時:令和9年2月11日(木・祝)~18日(木)10時~18時

会場:文京シンビックセンター1階ギャラリージビック

入場:無料

問合せ アカデミー推進課文化事業係
東京都文京区春日1-16-21 TEL 03-5803-1120

12月21日(月)~令和9年3月1日(月)は館内設備工事を行う予定です。工事に伴う休館や工事音などご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。

令和8年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

令和8年(2026)9月18日発行

編集・発行:文京区アカデミー推進部アカデミー推進課
文化資源担当室(文京ふるさと歴史館)

印刷物番号 D0126010



▲文京ふるさと歴史館HP

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内

●文京区立森鷗外記念館

コレクション展「鷗外、雑誌をつくる。」

館蔵の校正紙や原稿、書簡とともに、『しがらみ草紙』『めさまし草』をはじめとする文芸誌や、『衛生療病志』『公衆医事』といった医学雑誌など、鷗外が作った雑誌を紹介します。

会期:開催中~9月30日(水)

休館日:9月24日(木)・25日(金)

観覧料:300円(20人以上の団体240円)

特別展「観潮楼歌会—鷗外の歌壇観測—

鷗外が自邸である観潮楼で主宰した月例の歌会、「観潮楼歌会」を紹介します。与謝野寛や伊藤左千夫、石川啄木ら出席者の記録や回想から、歌会の様子をご覧ください。

会期:10月10日(土)~令和9年1月11日(月・祝)

休館日:10月26日(月)・27日(火)、11月24日(火)・25日(水)、12月21日(月)・22日(火)、
29日(火)~1月3日(日)

観覧料:600円(20人以上の団体480円)

※11月1日(日)の開館記念日は、展覧会観覧者全員にポストカードをプレゼント



中央に鷗外。平福百穂「観潮楼歌会」(「スバル」明治42年3月より)

コレクション展「新収蔵品展(仮)」

平成24年11月の開館から14年間に新たに収蔵した資料を精選して展示します。新収蔵品を通じ、鷗外の多彩な活動や人物交流に触れてみましょう。

会期:令和9年1月17日(日)~3月31日(水) 予定

休館日:1月25日(月)~28日(木)、2月24日(水)~26日(金)、3月23日(火)・24日(水)

観覧料:300円(20人以上の団体240円)※1月19日(火)の鷗外誕生日は無料観覧日



久保田米斎画「歌舞伎」100号
(森篤次郎追悼号)表紙絵原画
(平成25年度収蔵)

問合せ 文京区立森鷗外記念館 東京都文京区千駄木1-23-4
TEL 03-3824-5511
開館時間:10時~18時(最終入館17時30分)

※中学生以下・障害者手帳提示の方と介護者1人は観覧料無料



▲森鷗外記念館HP

ふるさと歴史館・森鷗外記念館 相互割引(入館1回につき1回限り)

- 歴史館入館券、友の会会員証、歴史館パンフレット(押印あり)提示
→ 森鷗外記念館観覧料が2割引
- 森鷗外記念館入館券、鷗外バス提示
→ 歴史館の入館料が団体料金適用



愛媛県松山市生まれ。本名・常規、幼名・升。父・常尚は松山藩士。16歳で上京後、東京大学に進学し在学中に俳句論『癩祭書屋俳話』が新聞に連載され注目を集めました。大学中退後、日本新聞社に入社し日清戦争に従軍しました。帰国途中で咯血し、以後永い病床生活に入ります。明治30年(1897)『歌よみに与ふる書』を発表し短歌革新を試み、芭蕉や古今和歌集についての自説を展開し再評価を喚起するなど精力的に文学活動を行いました。自身の凄絶な闘病生活は随筆『病牀六尺』などに記されています。

代表作は上記のほか『竹乃里歌』『寒山落木』など多数あり、俳句は約25,000句、短歌は約2,500首が確認されています。

子規は明治35年、脊椎カリエスにより34歳で死去しました。

●文京区とのゆかり

明治16年、叔父の加藤拓川(外交官・政治家)を頼って上京しました。旧松山藩主の育英事業・常磐会の給費生となり寄宿舎(現・本郷4)に入居しました。翌年、英語力向上のため本郷の進文学舎で坪内逍遙に学び、その後、東京大学で終生の友となる夏目漱石と知り合います。明治22年、寄宿舎で咯血し、鳴いて血を吐くホトギスになぞらえて「子規」を号すきっかけとなりました。在学中に小説家を志し、『月の都』の執筆に専念するため向丘へ転居しました。小説の評価を幸田露伴に求めたところ芳しくないため子規は詩(俳句・短歌等)の革新へと邁進しました。

文京区域では俳句や小説等を創作するほか、寄席・野球・旅行等に親しむなど青春時代を謳歌しました。

●茨城県石岡市とのゆかり

明治22年4月、水戸へ帰省した学友・菊池謙二郎(教育者・歴史研究者)を訪ねるために舎友と徒歩で4泊5日の旅に出ました。石岡市は2日目の宿泊地であり、その際に詠んだ句は現在、金刀比羅神社(石岡市国府6-2-1)境内に碑が建立され見ることができま

す。旅のようすは随筆『水戸紀行』に面白おかしく描かれており、当時の石岡市についても醬油の名所であったことや気候・宿のことが記されています。

道中雨天で体調不良となった子規は帰京後に寄宿舎で咯血し肺結核を患います。病をきっかけに人生を振り返り『水戸紀行』を執筆しました。



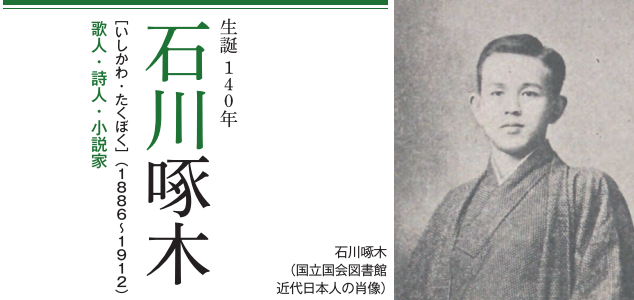
句碑 (石岡市提供)



明治29年(1896)、岩手県稗貫郡里川口村(現・岩手県花巻市)に生まれ、県立盛岡中学校、盛岡高等農林学校を卒業、稗貫農学校教諭となり、熱心な教育活動を行いつつ、詩や童話を創作しました。

生涯のうちいく度か上京し、現在の文京区の目白台、本郷、湯島等に滞在するいは訪れたこともありま

した。大正10年(1921)、本郷に滞在した頃には、1カ月に書いた原稿用紙が三千枚にもなったというエピソードが伝えられています。没後発行された賢治の初全集『宮沢賢治全集』(昭和9年～発行)は、日本郷区森川町(現・本郷6)にあった文圃堂書店から発行されたものです。その編集人には弟・宮沢清六ほか高村光太郎・横光利一・草野心平などの“文京ゆかりの文化人”が名を連ね、文京とゆかりの深い全3冊となっています。『風の又三郎』『セロ弾きのゴーシュ』『銀河鉄道の夜』など童話の数々や『春と修羅』などの詩作等を収載するこの全集は、賢治の作品世界を世に広めるきっかけのひとつとなったものです。



岩手県南岩手郡日戸村(現・盛岡市)生まれ。本名・一。啄木はその生涯の中で、文学をもって身を立てるべくいく度か上京しており、その際、文京区域は活動拠点の一つとなりました。明治35年(1902)に初めて上京した際は、小日向台町(現・音羽1)に止宿し、明治37年に処女詩集『あこがれ』出版のため上京した時は、わずかな期間ですが向ヶ岡弥生町に下宿を求めました。そして、明治41年に北海道から上京した際は、友人である金田一京助の助けを借りて、本郷菊坂町(現・本郷5)の赤心館や、本郷森川町(現・本郷6)の蓋平館別荘に下宿しました。翌年に職を得ると、本郷弓町(現・本郷2)の喜之床2階に移り住みましたが、その後病に侵され、明治44年に移った小石川久堅町(現・小石川5)の借家にて亡くなりました。

赤心館への下宿時には一月ほどの間に小説を5作以上執筆したほか、蓋平館別荘に住んだ時期に『スバル』発刊に尽力し、喜之床2階に間借りしていた時期に処女歌集『一握の砂』を刊行するなど、多くの実績を文京区域在住時に残しました。また、啄木の作品や日記には、湯島切通坂など文京の地が多数登場しており、創作活動との縁の深さがうかがえます。



明治19年(1886)東京市麹町区土手三番町(現・千代田区五番町)生まれ。本名・明。明治27年に駒込曙町(現・本駒込2)に一家で転居し、幼少期から成人までを文京区域で過ごしました。誠之小学校、東京女子師範学校附属高等女学校(現・お茶の水女子大学附属高等学校)を卒業し、明治36年に校長・成瀬仁蔵の「女子を人として教育すること」という理念に共感し、反対する父を説得して日本女子大学校(現・日本女子大学)に入学。明治40年には成美高等英語女学校に入学し、講師の生田長江の誘いで閩秀文学会へ参加。生田からの勧めで青鞥社を立ち上げ、明治44年に日本初の女性のみで編集された雑誌『青鞥』を創刊しました。初代事務所は観潮楼向かいの物集と子の自宅(林町9番地、現・千駄木5)におかれ、現在はその地に「青鞥社」発祥の地の碑が建っています。賛助員には与謝野晶子をはじめ著名な女流文学者が名を連ね、森鷗外夫人の森志げや妹の小金井喜美子も応援しました。

青鞥社での活動をきっかけに次第に婦人問題について関心を持つようになり、大正8年(1919)には市川房枝らと「新婦人協会」を結成し、翌年機関誌『女性同盟』を創刊。その後は昭和30年(1955)に「世界平和アピール七人委員会」に参加するなど生涯にわたって女性の権利拡大と世界平和に尽力しました。

文の京ゆかりの文化人関連施設	
公開時間や休館日などは、各施設にお問い合わせください。	
正岡子規	■松山市立子規記念博物館 愛媛県松山市道後公園1-30 TEL 089-931-5566 ■子規庵(水・土・日曜・祝日のみ) 東京都台東区根岸2-5-11 TEL 03-3876-8218
宮沢賢治	■宮沢賢治記念館 岩手県花巻市矢沢第1地割1番地36 TEL 0198-31-2319 ■宮沢賢治童話村 岩手県花巻市高松第26地割19番地 TEL 0198-31-2211 ■宮沢賢治イーハートブ館 岩手県花巻市高松第1地割1番地1 TEL 0198-31-2116 ■もりおか啄木・賢治青春館 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-25 TEL 019-604-8900
石川啄木	■石川啄木 終焉の地 歌碑・顕彰室 東京都文京区小石川5-11-8 TEL 03-5803-1174 (文京区アカデミー推進課) ■文京区立小石川図書館(石川啄木コーナー) 東京都文京区小石川5-9-20 TEL 03-3814-6745 ■石川啄木記念館・盛岡市玉山歴史民俗資料館 岩手県盛岡市渋民字渋民9 TEL 019-683-2315 ■啄木新婚の家 岩手県盛岡市中央通3-17-18 TEL 019-624-2193
平塚らいてう	■らいてうの家(土・日・月曜のみ) 長野県上田市真田町長字十の原1278-720 TEL 0268-74-1385 ■平塚らいてう・女性運動資料室(見学は申込制) 東京都文京区小石川5-10-20 新婦人中央本部事務所1階 TEL 03-3814-9141 ■田端文士村記念館 東京都北区田端6-1-2 TEL 03-5685-5171